



南葵音楽文庫ミニレクチャー

南葵音楽図書館と遠藤宏

～南葵音楽事業部研究部門の仕事～

南葵音楽文庫

和歌山県立図書館内

和歌山市西高松 1-7-38

tel.073-436-9500

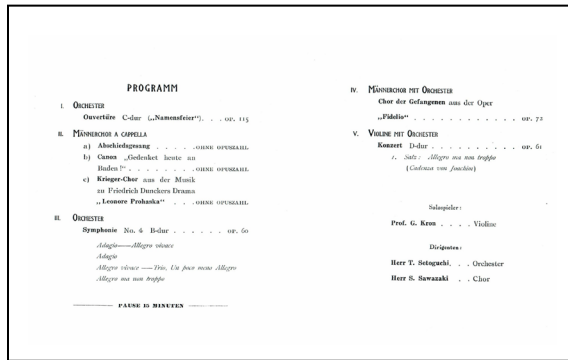
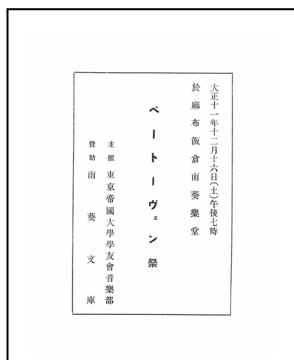
林 淑 姫

2019年9月14日(土) 11:00

南葵音楽文庫閲覧室(和歌山県立図書館内)

遠藤宏『南葵文庫』史話より(雑誌『音楽』アポロ社 1948.6)

間もなく頼倫侯が歿したが、多大の困難が残されていて、音楽事業には、そう経済上自由に出来なくなっていた。このような状態に置かれても、どんどん図書楽譜は買い集められた。(略) 音楽図書館の図書楽譜購入費以外、頼貞氏はポケットマネーで、ベートーヴェン、ショパン、ブラームスその他の音楽家の自筆原稿、書簡などを買われ、毎月送られて来るノベロの古書貴重楽譜のカタログには、買いたいものがチェックされた上、私の方に廻って来た。その調査をし、私も買って貰いたいものにチェックして、かくして毎月相当額の貴重本が購入されたのである。ある時、モーツァルトの原稿の売りものが非常に高価でカタログののって、頼貞氏はそれが欲しかったのであるが、徳川家の家扶が私の所へ先き廻りして来て、偽物だといってくれとのことだった。それは偽物ではなかったが、重要な作品でなく、残欠であったので、ベートーヴェンのスコットランド民謡編曲の楽譜を推薦したことがあった。そしてそれが買われた。(略)



東京帝国大学学友会音楽部「ベートーヴェン祭」1922年12月16日(南葵楽堂)

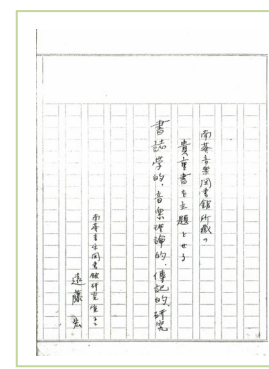
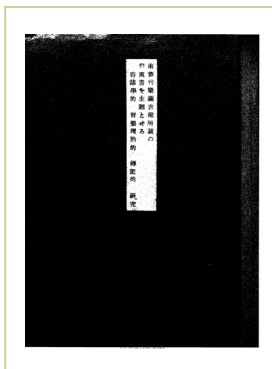
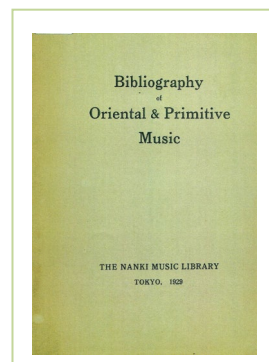
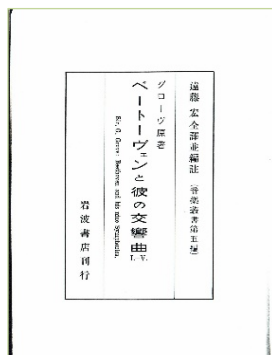
遠藤 宏

1894(明治27)3.20~1963(昭和38)2.2

横浜生まれ。東京帝国大学文学部哲学科卒。在学中より学友会音楽部のオーケストラにヴァイオリン奏者として参加、のち指揮者も務める。父が学習院で教鞭をとっていたこともあって、田村寛貞、徳川頼貞たちの「音楽奨励会」に加わり、大正末頃より幹事役。1925(大正14)年2月より南葵文庫の音楽蔵書の整理にあたり、南葵音楽事業部の創設とともに評議員に就任。兼常清佐、辻莊一らとともに研究事業に携わる。南葵研究員時代の編著書に *Bibliography of Oriental and Primitive Music* がある。1935(昭和10)年より東京音楽学校教授(1946年公職追放令により免官)、のち北海道大学教授を務める。東音教授時代より洋楽受容史および瀧廉太郎研究を進め、名著『明治音楽史考』(1948)、『瀧廉太郎の生涯と作品』(1950、改訂再版'52)を残した。研究、教職の傍ら札幌放送交響楽団の指揮者も務めている。

(写真・明治学院大学図書館附属日本近代音楽館提供)

【著書】(p2 参照)



東京帝国大学学友会音楽部「ベートーヴェン祭」1922年12月16日 南葵文庫賛助公演（南葵楽堂）
ヴァイオリン独奏 G. クローン、指揮 瀬戸口藤吉、合唱指揮 沢崎定之 *遠藤宏はヴィオラ
プログラム解説 遠藤宏執筆

曲目 （ベートーヴェン中期の作品 プログラムはドイツ語）

1. 序曲《命名祝日》Op.115 (1815)
2. 男声合唱曲（無伴奏） (1) 《別れの歌》 Op.102 (1814)
(2) 《レオノーレ・プロハスカ》より《戦士の合唱》WoO. 96 (1815)
(3) カノン《今日バーデンを思い出せ》WoO.181a (1820)
3. 《交響曲第4番》Op. 60 (1807)
4. 合唱曲. (管弦楽伴奏) 歌劇《フィデリオ》より《囚人の合唱》Op. 72 (1814)
5. 《ヴァイオリン協奏曲 ニ長調》Op.61 (1806)

【著書】

グローヴ原著『ベートーヴェンと彼の交響曲 I-V.』 遠藤宏全訳並編註 岩波書店 大正14 (1925) 年12月
(音楽叢書第5編)

原書 George Grove. *Beethoven and His Nine Symphonies.* London, Novello, [pref. 1896]

2分冊で刊行予定。第2巻は未刊。

謝辞「本書の訳出に際し、南葵音楽図書館蔵の貴重図書、ベートーヴェン交響曲原稿正写版及び第一版等を種々参考、利用し得たことに対し徳川頼貞侯に厚く感謝し、また先輩田村寛貞、上野直昭、兼常清佐諸氏の日頃の厚意に対してもこゝに感謝の意を表します。」
(和歌山県立図書館 ナ762.3/ベト/1)

Hiroshi Endo, compiled. *Bibliography of Oriental and Primitive Music.* Tokyo, Nanki Music Library, 1929.
海外向けに出版。東洋音楽、民族音楽に関する欧文文献書目。音楽雑誌論文、学会報告を含む654点を収録。インドのタゴール、日本の伊澤修二などと並んでシャルル・ルルーの雅楽研究論文等も収録。

“I owe respectful thanks to His Excellency Marquis Tokugawa of Kishu, President of the Nanki Music Library, for the interest taken in my works, and without his collection, comprising numerous books, music notes and instruments in his Library, I am afraid I should never have finished my task. Hiroshi Endo, Committee of the Nanki Music Institute” (序文)
(和歌山県立図書館 ナ760.31/BI 複写)

遠藤宏「南葵音楽図書館所蔵の貴重書を主題とせる音楽書誌學的、音楽理論的、傳記的研究」

自筆原稿。400字詰め原稿用紙136枚。未刊。

田村寛貞(1883-1934)が1926年から27年にかけてドイツに滞在した折、南葵音楽図書館のために蒐集した資料(フリートレンダーより譲られた資料を含む)のうち貴重書55点について解題したもの。「貴重書」の定義は、1. 1800年以前の刊行書 2) 1800年以後の「得難き」書 3) 初版本または珍本。4) 内容的に優れているもの 5) 注目すべき書入れ、署名のあるもの。18世紀刊行のプロッサールやルソーの音楽辞書から記述が始められている。南葵音楽図書館から刊行の予定であったが実現しなかった。

(明治学院大学図書館附属遠山一行記念日本近代音楽館「遠藤宏文庫」蔵)

上記と同様未刊のまま残された大部な著作に、シューベルトの全作品目録がある。

Franz Schubert's Gesamtwerke chronologische-tabellarische Übersicht. (1928)

シューベルト歿後100年記念出版の予定であった。原稿は長く著者の手元で保存されていたが、歿後夫人より遠山音楽財団附属図書館(現明治学院大学図書館附属遠山一行記念日本近代音楽館)に寄贈、「遠藤宏文庫」収蔵資料として保管されている